

都市型データセンターの導入検討に関する実証実験を開始します ～東急線沿線を軸に、次世代デジタルインフラの展開を目指します～

東急株式会社
東急電鉄株式会社
イツ・コミュニケーションズ株式会社
東急建設株式会社

東急株式会社、東急電鉄株式会社、イツ・コミュニケーションズ株式会社および東急建設株式会社の4社は、鉄道高架下において、都市型データセンターの導入検討に関する実証実験（以下、本実証実験）を2026年6月から開始します。

東急グループは創業以来、まちづくりを通じた社会課題の解決に取り組み、「世界が憧れるまちづくり」の実現を目指してきました。その一環として、リアルとデジタルの融合による次世代に向けたまちづくりを推進しています。

昨今、生成AIやIoT、5Gの普及により、低遅延・高信頼なデータ処理基盤へのニーズが急速に高まっています。このようなニーズに応えるためには、従来の大規模データセンターとは異なるコンパクトな設備をデータ需要が集積する都市部へ分散配置することが重要となっています。

本実証実験では、大井町線高架下に「モジュール型小規模データセンター※」を設置し、鉄道高架下特有の環境下でのサーバーに対する影響や、サーバーの筐体（きょうたい）の遮音・断熱・免振・冷却性能について測定を行い、その結果をもとに、さまざまな環境下でのデータセンター設置の実現可能性を検証します。

東急線沿線に既に敷設されている大容量光ファイバーネットワークを直接活用できるという利点を生かし、今後は、渋谷を含めた東急線沿線へのデータセンター設置も視野に入れ、東急線沿線のデジタル都市基盤の構築を通じて沿線の魅力と付加価値を高め、人口誘致にも貢献します。また、今後も社会課題の解決を通じて、多様なステークホルダーに新たな価値を提供できるまちづくりを目指します。

※ サーバーの稼働に必要な冷却装置や電源設備などを、あらかじめコンテナのような専用の箱（モジュール）に収めた小規模なデータセンターのこと。大規模な建物を建設する必要がなく、限られたスペースへの柔軟かつ迅速な設置が可能。



▲都市型データセンター（イメージ）

▲高架下に設置するモジュール型小規模データセンター（イメージ）

【別紙】

■本実証実験における各社の役割

名称	役割
東急建設	本実証実験の主体的な実施者、およびモジュール型データセンターの技術開発
東急	本実証実験の全体調整、および将来的なデジタル都市基盤への活用検討
東急電鉄	本実証実験における検証場所(鉄道高架下施設)の提供
イツツ・コミュニケーションズ	鉄道敷設光ファイバーおよびCATV光ファイバー網の提供、ネットワーク環境の構築、および通信品質の検証

※本実証実験の推進にあたり、筐体部で日東工業株式会社の、断熱建材でタイガー魔法瓶株式会社の技術サポートも受ける予定です。

以 上